

樋上謙士<sup>1</sup>・上田寛之<sup>1</sup>・堀場 恵<sup>2</sup>・柏崎禎夫<sup>1</sup>

11. ヒト CD4<sup>+</sup>T 細胞の成熟度の解析

(<sup>1</sup>微生物学免疫学, <sup>2</sup>循環器小児外科) 今西健一<sup>1</sup>・瀬尾和宏<sup>2</sup>・  
加藤秀人<sup>1</sup>・三好秋山 徹<sup>1</sup>・張 瑞華<sup>1</sup>・  
高梨吉則<sup>2</sup>・今井康晴<sup>2</sup>・内山竹彦<sup>1</sup>

座長 今西健一 (微生物学免疫学)

12. NOD/SCID マウスにおけるヒト末梢血・臍帯血移植の検討

(母子総合医療センター) 高橋尚人

13. マウス MHC クラス II I-A<sup>d</sup>分子 mutation の T 細胞抗原認識への影響

(母子総合医療センター) 高橋尚人

14. Myelopathy を呈し idiopathic CD4<sup>+</sup>T-lymphocytopenia を

疑われた成人男子例

(神経内科) 太田宏平・橋本しをり・柴田興一・市川久恵・  
清水優子・植田美加・岩田 誠

1. リンパ濾胞内リンパ球の増殖とアポトーシス  
—濾胞樹状細胞-リンパ球クラスターとの関連—

(<sup>1</sup>東女医大・第二病理, <sup>2</sup>山形大・医学部・第  
二病理) 山川光徳<sup>1</sup>・大類 広<sup>2</sup>・  
榎本浩子<sup>1</sup>・増田昭博<sup>1</sup>・笠島 武<sup>1</sup>

扁桃2次リンパ濾胞の dark zone (DZ) は B 細胞の増殖の場である。また、胚中心 B 細胞の一部は濾胞樹状細胞-クラスター (FDC cluster) を形成する。しかし、リンパ濾胞の他の領域や FDC cluster 内のリンパ球がどんな cell cycle phase にあり、どれ程の頻度で apoptosis に陥るかは不明である。我々は、免疫染色と ISH 法による cell cycle phase および分離 FDC cluster での apoptosis を評価した。その結果、いずれの cell cycle マーカーも DZ と outer zone (OZ) で高率に陽性であった。分離 FDC cluster での検討では、クラスター内リンパ球はクラスター外のものに比べ cyclin B1 と Ki-67 陽性率が有意に低く、apoptosis も低頻度であった。以上より、DZ のみならず細胞の通路と推定されてきた OZ も増殖の場である可能性があり、また、FDC cluster はリンパ球の増殖や apoptosis を完了させる場ではないことが示唆された。

2. 急性肝炎・劇症肝炎における血中可溶性 VCAM-1 測定の意義

(消化器内科) 春田郁子  
鈴木智彦・山口尚子・宮園裕子・  
徳重克年・山内克巳・林 直諒

[目的] 各種肝炎における可溶性 VCAM-1 濃度を測定し臨床意義を検討した。

[方法] 急性肝炎 (AH) 10 例、劇症肝炎 (FH) 5 例、正常 (cont.) 11 例、疾患コントロール・脂肪肝 10 例の血清を用い血中 sVCAM-1 の濃度を測定した。更に AH・FH および cont. の肝組織で免疫染色法で VCAM-1 およびリガンドの VLA-4 の局在を検討した。

[結果・考察] cont. ( $414.7 \pm 216.9$ ) に比し AH ( $1876.4 \pm 362.8$ ), FH ( $3060.6 \pm 1175.4$ ) と sVCAM-1 の有意な上昇 ( $p < 0.01$ ) をみた。正常群と疾患コントロール群 ( $411.1 \pm 128.8$ ) で sVCAM-1 値に有意差はみられなかった。AH の極期にみられた sVCAM-1 の上昇は肝炎の回復に伴い改善した。肝組織では cont. に比し AH・FH で、血管内皮上で VCAM-1 の発現の増強、浸潤リンパ球上の VLA-4 の発現の増強がみられた。肝炎の重症度の評価に血中可溶性 sVCAM-1 の測定は有用であると考えられた。

3. ベーチェット病のぶどう膜炎患者の末梢血の sFas 検索

(第二病院・眼科) 武藤哲也・野内文乃・  
末丸純子・助川祥一・太刀川貴子・  
稲葉午朗・氏原 弘・宮永嘉隆

ベーチェット病患者血清の sFas は活動期と非活動期で有意差はなかったが、対照よりは有意に高値を示した。

ベーチェット病患者および健康人の sFas と年齢との間に相関が認められた。sFas は加齢とともに増加する傾向がある。ベーチェット病の年齢との相関は活動期・非活動期の相違によるものと考える。

末梢血活性化 T 細胞の Fas 感受性は健康人より増